

V International Rhythmic Gymnastics Tournament
“Prize of Julieta Shishmanova” FIG 【1 日目】

開催日：2026 年 7 月 3 日（金）～4 日（土）

開催地：ブルガス（ブルガリア） 7 月 3 日～4 日、

ブルガリアにて「V International Rhythmic Gymnastics Tournament “Prize of Julieta Shishmanova” FIG」が開催され、個人 4 カ国が参加している。

日本からは、ジュニア個人強化選手の五十嵐杏選手、大塚月愛（るうな）選手、ネクストシニア個人選手の大野楓葵（かえら）選手、井上結愛（ゆあ）選手が出場した。

大会初日は、個人総合・種目別予選(フープ・ボール・クラブ・リボン)が行われた。

【ジュニア個人：大塚月愛】

《ボール》

得点：18.150（DB 2.50/DA 2.50/A 6.75/E 6.40）

全体を通して技に急ぎ、DB の実施がとても甘かった。後半の大反りジャンプではボールに気をとられ、着地の意識が抜け転倒をし、その後の R も抜いたことで大きなミスとなった。構成の難易度を以前よりも上げているからこそ、今回の経験を通して試合で決め切る力を身につけてほしい。

《フープ》

得点：21.300（DB4.00/DA2.70/A7.45/7.15）

スタートのステップの終わりに小さな落下があったが、その後は切り替えて本人の持つ伸びやかさを発揮し、踊ることが出来ていた。しかし、R に関しては投げが不安定となり、精度が低いものとなり、受けの価値を取り切ることが出来なかった。

《リボン》

得点：19.250（DB 3.50/DA 2.40/A 7.20/E 6.15）

先月作品を変えてから初めての試合であったが、ブーメランで 2 か所落下があり、内容としては決して良いものではなかった。しかし、ミスがある中で A において 7.2 をもらえたことは作品を変えたことがプラスに働き、今後の実施に大いに期待のできるものであった。

《クラブ》

得点：19.100（DB2.20 /DA 3.20/A 7.15/E 6.55）

それまでの 3 種目から切り替え、彼女の持ち味であるエネルギーがよく発揮された演技ではあったが、R2 つが実施できず、大きく加点を落とすこととなってしまった。明日の決勝では、本人の持つ力が最大限発揮されることを期待したい。

【ジュニア個人：五十嵐杏】

《フープ》

得点：22.100（DB4.40 /DA2.80 /A7.20/E7.70）

1 種目めではあったが、緊張感の中で落ち着いて実施しようという意識が見える演技であっ

た。しかし、中盤の R で良い投げではあったが掴み損ねるというミスがあり、もったいなかったが、後半大きな技に挑戦をする姿は評価に値するものであった。

《ボール》

得点：21.250 (DB4.40 /DA2.80 /A7.15/E6.90)

5 月のアジアジュニア選手権の時から、DA や DB のクオリティが良くなっていることが伝わる演技であった。1 か所転がしでミスが出てしまったことはもったいなかったが、DA 中のキャラクターやステップにおいて、キャラクターをしっかりと見せようという意識が見えた。

《クラブ》

得点：20.450 (DB3.10 /DA3.30 /A7.25/E6.80)

前半 2 種目は緊張から硬さをあったが、クラブはスタートのステップから曲の世界観を十分に表現しようという意識が見えた演技であった。中盤から後半にかけて高難度な技が組み込まれているため、実施力を上げ、試合で決められるよう練習に励んでほしい。

《リボン》

得点：19.950 (DB2.90 /DA3.30 /A7.15/E6.60)

短時間でのローテーションに対応し切れていない様子があり、ポイントを絞って演技に入ることができず、技においての冷静さが足りず、R やブーメランなどでミスが続いてしまった。どの試合でもリボンは最終種目であることが多いため、どんな状況でもやり切れる強さを身につけてほしい。

【シニア個人：大野楓葵】

《フープ》

得点：25.500 (DB6.00 /DA4.70 /A7.25/E7.55)

投げの軌道や受けが乱れてしまうこともあったが、素早く反応をし、ミスに見せることなく、次々と続く技に思い切り挑戦することが出来ていた。少しバランスの静止や DB のフォームが甘くなってしまったものがいくつかあったため、明日の実施に期待したい。

《ボール》

得点：24.450 (DB5.80 /DA3.70 /A7.30/E7.65)

転がしの DA の回転が浅くなってしまった部分や、ジャンプのフォームへの意識が足りなくなってしまう瞬間もあったが、最後までエネルギーを落とすことなく、伸び伸びと踊り切ることが出来ていた。ラストの R も投げにわずかなズレがあったが、素早く対処することが出来ていた。

《クラブ》

得点：25.350 (DB7.40 /DA3.60 /A7.30/E7.05)

中盤の非対称の R で 1 本目のクラブの軌道が大きく乱れたことで身体の反応が間に合わず、落下ミスがあったことはとてももったいなかったが、そこで大きく乱れることなく、最後まで落ち着いて演技をすることができたことは 1 つ成果であった。

《リボン》

得点：25.200 (DB6.30 /DA4.00 /A7.65/E7.25)

最終種目ということで体力的にしんどい部分もあったと思うが、よく耐え、最後まで踊り切ることができた。終盤に身体にリボンが巻き付いてしまうミスがあったが、素早く対処をし、最後のRまで落ち着いてやり切ることが出来ていた。

【シニア個人：井上結愛】

《ボール》

得点：20.100 (DB 4.00/DA 2.60/A 7.05/E 6.45)

スタートの座の転がしで落下があり、すぐに対処をしたが、その後もどこか冷静さが足りず、2つ目のRも落下となり、ドゥバンの足も20度以下に下がり、全体的に精彩さに欠ける演技となった。

《フープ》

得点：24.100 (DB5.50/DA3.50/A7.30/E7.80)

全体を通して、全身を大きく使い、ひとつひとつ丁寧に実施することのできた演技であり、中盤からは力強さも見える演技であった。しかし、パンシェターン、ドゥバンはノーカウントとなってしまうため、決勝では改善を期待したい。

《リボン》

得点：18.650 (DB 2.80/DA 3.20/A 6.60/E 6.05)

前半は落ち着いて実施することができていたが、後半に入ったところで、体が先に急ぎ、準備ができていない状態のまま投げに入ってしまったことで、後半2つのRがノーカウントとなってしまった。また、全体のリボンのかきも緩く、体に近い場所が多かったため、決勝では力強く踊ってくれることを期待したい。

《クラブ》

得点：23.200 (DB4.80 /DA3.30 /A7.60 /E7.50)

スタートのRがかなり大きくなったが冷静に対処をし、その後もひとつひとつ落ち着いて実施することが出来ていた。後半の高難度のR2つもしっかりと決め、ダイナミックさの伝わる演技であった。バランスの静止が甘くなってしまうため、決勝での修正を期待したい。